

News Release

報道関係者各位
2019年5月27日
(2023年6月29日訂正)



2018 年度決算報告

マニユライフ生命保険株式会社(取締役代表執行役社長兼 CEO: 吉住公一郎、本社: 東京都新宿区、以下「マニユライフ生命」)の日本会計基準に基づく2018年度業績をお知らせいたします。

<2018 年度業績のハイライト>

新契約の状況(※)	新契約高	1兆8,618億円
	新契約件数	23万1千件
	新契約年換算保険料	1,270億円
保有契約の状況(※)	保有契約高	13兆8,846億円
	保有契約件数	145万5千件
	保有契約年換算保険料	6,232億円
保険料等収入		1兆602億円
当期純利益		81億円
総資産		2兆219億円
ソルベンシー・マージン比率		843.5%

※個人保険と個人年金保険の合計です。

マニユライフ生命について

マニユライフ生命は、130年の歴史を持ち、カナダを本拠とする大手金融サービスグループ、マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション(マニユライフ)のグループ企業です。プランライト・アドバイザー(自社営業職員)、金融機関、代理店の3つの販売チャネルを通じて、法人ならびに個人のお客さまへ、先進的な商品と質の高いサービスを提供しています。ブランド・スローガン「今日を生きる。明日をひらく。」のもと、お客さまが自ら健康で豊かな未来を切りひらいていくためのサポートをしています。詳細はホームページ(www.manulife.co.jp)をご覧ください。

2018年度決算報告

マニユライフ生命保険株式会社(代表執行役社長兼 CEO:吉住公一郎)の2018年度の業績は添付の通りです。

※資料中、「2018年度」は「2018年4月1日～2019年3月31日」を表しております。

<目次>

	頁
1. 主要業績	1
2. 2018年度末保障機能別保有契約高	3
3. 2018年度一般勘定資産の運用状況	4
4. 貸借対照表	9
5. 損益計算書	16
6. 経常利益等の明細(基礎利益)	18
7. 株主資本等変動計算書	19
8. 債務者区分による債権の状況	21
9. リスク管理債権の状況	21
10. ソルベンシー・マージン比率	22
11. 2018年度特別勘定の状況	24
12. 保険会社及びその子会社等の状況	25

以上

1. 主要業績

(1) 保有契約高及び新契約高

・保有契約高

(単位:千件、億円、%)

区 分	2017年度末				2018年度末			
	件 数		金 額		件 数		金 額	
		前年度末比		前年度末比		前年度末比		前年度末比
個 人 保 険	999	104.9	116,054	107.7	1,063	106.4	115,102	99.2
個 人 年 金 保 険	318	121.6	19,993	120.6	392	123.2	23,744	118.8
団 体 保 険	—	—	356	98.1	—	—	353	99.1
団 体 年 金 保 険	—	—	32	91.7	—	—	30	93.1

- (注) 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金及び個人年金保険に付加された特約の死亡保障額を合計したものです。
ただし、個人変額年金保険については、保険料積立金の金額です。
2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。

・新契約高

(単位:千件、億円、%)

区 分	2017年度						2018年度					
	件 数		金 額				件 数		金 額			
		前年度比	前年度比	新契約	転換による純増加		前年度比	前年度比	新契約	転換による純増加		
個 人 保 険	117	67.4	19,212	73.7	19,215	△ 3	137	116.8	13,054	68.0	13,057	△ 2
個 人 年 金 保 険	90	146.7	6,022	124.4	6,022	—	94	103.9	5,563	92.4	5,563	—
団 体 保 険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
団 体 年 金 保 険	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- (注) 1. 件数は、新契約に転換後契約を加えた数値です。
2. 新契約の個人年金保険の金額は、年金支払開始時における年金原資です。
ただし、個人変額年金保険については、新契約時の基本保険金額です。

(2) 年換算保険料

・保有契約

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度末		2018年度末	
		前年度末比		前年度末比
個 人 保 険	442,008	108.0	491,108	111.1
個 人 年 金 保 険	122,902	113.8	132,111	107.5
合 計	564,910	109.2	623,219	110.3
うち医療保障・ 生前給付保障等	90,953	105.4	87,184	95.9

・新契約

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度		2018年度	
		前年度比		前年度比
個 人 保 険	75,448	82.8	102,706	136.1
個 人 年 金 保 険	26,960	114.2	24,352	90.3
合 計	102,408	89.2	127,059	124.1
うち医療保障・ 生前給付保障等	12,527	101.5	5,602	44.7

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額(一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額)です。
2. 「医療保障・生前給付保障等」については、医療保障給付(入院給付、手術給付等)、生前給付保障給付(特定疾病給付、介護給付等)等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。
3. 年換算保険料(新契約)は、新契約に、転換による純増加を加えた数値です。

(3) 主要収支項目

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度		2018年度	
		前年度比		前年度比
保 険 料 等 収 入	944,001	106.7	1,060,245	112.3
資 産 運 用 収 益	74,131	82.4	48,566	65.5
保 険 金 等 支 払 金	956,779	120.5	978,093	102.2
資 産 運 用 費 用	18,050	400.3	11,573	64.1
経 常 利 益	8,318	88.4	4,723	56.8

(4) 総資産

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度末		2018年度末	
		前年度末比		前年度末比
総 資 産	2,018,724	96.6	2,021,968	100.2

2. 2018年度末保障機能別保有契約高

(単位:千件、億円)

項 目		個人保険		個人年金保険		団体保険		合 計	
		件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
死亡保障	普通死亡	583	115,019	—	7,441	4	353	588	122,814
	災害死亡	471	21,519	26	243	—	—	498	21,762
	その他の条件付死亡	230	19,466	4	123	0	7	235	19,597
生存保障		323	612	392	23,700	0	0	716	24,313
入院保障	災害入院	443	49	0	0	—	—	444	49
	疾病入院	467	102	1	0	—	—	468	102
	その他の条件付入院	721	145	0	0	0	0	722	145
障害保障		141	—	0	—	0	—	142	—
手術保障		1,176	—	1	—	—	—	1,177	—

項 目		団体年金保険		財形保険・財形年金保険		合 計	
		件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
生存保障		2	30	0	5	2	35

- (注) 1. 団体保険、団体年金保険、及び財形保険・財形年金保険の件数は被保険者数を表します。
 2. 「生存保障」欄の金額は、個人年金保険、団体保険(年金特約)及び財形年金保険(財形年金積立保険を除く)については、年金支払前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したもの、団体年金保険、財形保険及び財形年金積立保険については責任準備金を表します。
 3. 「入院保障」欄の金額は入院給付日額を表します。

3. 2018 年度一般勘定資産の運用状況

(1) 2018 年度の資産の運用概況

① 2018 年度の運用環境

2018 年度の日本経済は、自然災害を背景とした個人消費、生産及び輸出活動の停滞を主因に夏季はマイナス成長となりましたが、その後は内需に牽引されて再びプラス成長に転じました。実質 GDP 成長率(前期比年率)は 4-6 月期 1.9%のプラス、7-9 月期 2.4%のマイナス、10-12 月期 1.9%のプラスとなりました。雇用環境は、2019 年 3 月の完全失業率は 2.5%、有効求人倍率は 1.63 倍と良好な状況が継続しています。全国消費者物価指数(除く生鮮食品)はプラス圏で推移し、3 月は前年同月比 0.8%のプラスとなりましたが、インフレ基調は依然として低位な状態が継続しています。

為替市場は、上半期のドル円相場は米利上げ観測や米長期金利上昇を背景に円安ドル高が進行し、一時 114 円台まで上昇する局面も見られました。もともと、年末にかけて市場心理の悪化や 2019 年の米利上げ観測後退を背景に円高ドル安となり、期末のドル円相場は 110 円台となりました。ユーロ円相場は、欧州中央銀行(ECB)の金融正常化観測や欧州における地政学リスクが意識されて 2018 年内は 124 円～133 円台で推移しました。年末にかけてユーロ円は下落し、期末は 124 円台となりました。

国内株式市場は、米通商政策の不透明感や米中貿易摩擦に対する懸念を背景に軟調に推移し、2019 年 3 月末時点の東証株価指数(TOPIX)は前年度末比 7.3%の下落となりました。国内金利は、日本銀行による金融緩和政策の長期化が想定される中、主に超長期国債において金利低下が進行しました。2018 年 7 月の金融政策決定会合において、日本銀行がある程度の金利上昇を容認する姿勢を示し弾力的な国債買い入れを表明すると長期金利は上昇基調で推移し、一時 0.16%台まで上昇する局面も見られました。もともと、その後は市場のリスク回避的な動きが強まる中で金利低下が進行し、米連邦準備制度理事会のハト派的姿勢への転換を背景に世界的に金利低下圧力が強まる環境の下で、期末の 10 年国債利回りはマイナス 0.081%となりました。

② 運用方針

当社の資産運用は、全世界のマニユライフ・グループ全体で実施されている資産負債管理プロセスに則って行われています。この管理プロセスに基づき、当社保険商品の負債特性にマッチする運用資産への投資が実行され、運用資産ポートフォリオは公社債を中心に構築され、利率、期間、通貨等、原則的には当社負債の要件を反映させています。ポートフォリオは、確定利付資産以外の資産にも投資を行い、長期の負債や資本金に対応すべく、負債とのマッチングや分散投資、収益向上を図っています。

③ 運用実績の概況

2019 年 3 月末現在の一般勘定資産は前年度末の 1 兆 4,346 億円から 572 億円増加し、1 兆 4,918 億円となりました。主要な一般勘定資産の残高は、公社債が 8,211 億円より 566 億円減少し 7,644 億円、国内株式が 296 億円から 285 億円減少し 11 億円、外国証券が 4,094 億円より 957 億円増加し 5,052 億円、その他の証券が 136 億円より 241 億円増加し 378 億円になりました。また、不動産は 244 億円から 2 億円減少し 242 億円になりました。

(2) 資産の構成

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度末		2018年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現 預 金・コー ル ロ ー ン	55,220	3.8	60,771	4.1
買 現 先 勘 定	—	—	—	—
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	—	—	—	—
買 入 金 銭 債 権	—	—	—	—
商 品 有 価 証 券	—	—	—	—
金 銭 の 信 託	—	—	—	—
有 価 証 券	1,273,934	88.8	1,308,597	87.7
公 社 債	821,128	57.2	764,434	51.2
株 式	29,671	2.1	1,103	0.1
外 国 証 券	409,487	28.5	505,254	33.9
公 社 債	389,587	27.2	469,318	31.5
株 式 等	19,900	1.4	35,936	2.4
そ の 他 の 証 券	13,647	1.0	37,805	2.5
貸 付 金	20,213	1.4	46,418	3.1
不 動 産	24,452	1.7	24,203	1.6
繰 延 税 金 資 産	—	—	2,229	0.1
そ の 他	61,098	4.3	49,914	3.3
貸 倒 引 当 金	△ 247	△ 0.0	△ 255	△ 0.0
合 計	1,434,670	100.0	1,491,879	100.0
う ち 外 貨 建 資 産	344,191	24.0	398,235	26.7

(注)「不動産」については土地・建物を合計した金額を計上しています。

(3) 資産の増減

(単位:百万円)

区 分	2017年度	2018年度
現 預 金・コー ル ロ ー ン	8,363	5,551
買 現 先 勘 定	—	—
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	—	—
買 入 金 銭 債 権	—	—
商 品 有 価 証 券	—	—
金 銭 の 信 託	—	—
有 価 証 券	69,575	34,663
公 社 債	35,757	△ 56,694
株 式	△ 4,358	△ 28,567
外 国 証 券	30,760	95,766
公 社 債	26,612	79,730
株 式 等	4,147	16,035
そ の 他 の 証 券	7,415	24,158
貸 付 金	9,496	26,205
不 動 産	△ 221	△ 248
繰 延 税 金 資 産	—	2,229
そ の 他	15,542	△ 11,184
貸 倒 引 当 金	△ 114	△ 7
合 計	102,641	57,208
う ち 外 貨 建 資 産	27,806	54,044

(注)「不動産」については土地・建物を合計した金額を計上しています。

(4) 資産運用関係収益

(単位:百万円)

区 分	2017年度	2018年度
利息及び配当金等収入	21,840	23,730
預貯金利息	7	24
有価証券利息・配当金	19,543	21,184
貸付金利息	322	553
不動産賃貸料	1,947	1,948
その他利息配当金	18	20
商品有価証券運用益	—	—
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	15,038	10,186
国債等債券売却益	6,382	3,225
株式等売却益	7,250	5,569
外国証券売却益	1,405	1,392
その他	—	—
有価証券償還益	42	—
金融派生商品収益	110	—
為替差益	—	2,355
貸倒引当金戻入額	—	—
その他運用収益	22	—
合 計	37,055	36,273

(5) 資産運用関係費用

(単位:百万円)

区 分	2017年度	2018年度
支払利息	21	25
商品有価証券運用損	—	—
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	1,434	7,916
国債等債券売却損	111	710
株式等売却損	627	4,932
外国証券売却損	694	2,274
その他	—	—
有価証券評価損	18	—
国債等債券評価損	—	—
株式等評価損	18	—
外国証券評価損	—	—
その他	—	—
有価証券償還損	—	—
金融派生商品費用	—	2,274
為替差損	15,328	—
貸倒引当金繰入額	114	7
貸付金償却	0	0
賃貸用不動産等減価償却費	295	302
その他運用費用	837	1,046
合 計	18,050	11,573

(6) 資産運用に係わる諸効率

① 資産別運用利回り

(単位:%)

区 分	2017年度	2018年度
現預金・コールローン	0.02	0.04
買現先勘定	—	—
債券貸借取引支払保証金	—	—
買入金銭債権	—	—
商品有価証券	—	—
金銭の信託	—	—
有価証券	1.43	1.81
うち公社債	1.63	1.11
うち株式	25.63	38.83
うち外国証券	△ 0.89	2.84
貸付金	2.32	1.80
不動産	4.08	4.06
一般勘定計	1.44	1.72
うち海外投融資	△ 0.87	2.73

(注) 1. 利回り計算式の分母は帳簿価額ベースの日々平均残高、分子は経常損益中、資産運用収益－資産運用費用として算出した利回りです。

2. 海外投融資とは、外貨建資産と円建資産の合計です。

② 売買目的有価証券の評価損益

該当ありません。

③ 有価証券の時価情報(売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの)

(単位:百万円)

区 分	2017年度末					2018年度末				
	帳簿価額	時 価	差 損 益			帳簿価額	時 価	差 損 益		
			差 益	差 損	差 益			差 損		
満期保有目的の債券	—	—	—	—	—	3,097	3,108	10	10	—
責任準備金対応債券	435,282	451,753	16,471	23,104	6,633	521,250	552,365	31,115	35,025	3,909
子会社・関連会社株式	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他の有価証券	820,536	831,755	11,218	28,154	16,936	743,338	771,324	27,985	30,776	2,791
公 社 債	466,736	481,659	14,922	15,458	536	413,980	430,720	16,740	16,767	27
株 式	25,585	29,157	3,571	4,334	762	—	—	—	—	—
外 国 証 券	315,272	307,616	△ 7,655	7,650	15,306	294,359	304,866	10,507	13,239	2,732
公 社 債	304,254	293,774	△ 10,479	4,671	15,151	272,191	278,683	6,491	9,004	2,512
株 式 等	11,018	13,841	2,823	2,978	154	22,167	26,183	4,015	4,235	219
その他の証券	12,942	13,322	380	711	331	34,999	35,736	737	769	32
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	1,255,818	1,283,508	27,690	51,259	23,569	1,267,686	1,326,798	59,111	65,812	6,700
公 社 債	806,206	839,181	32,975	36,224	3,249	747,693	791,533	43,840	44,167	327
株 式	25,585	29,157	3,571	4,334	762	—	—	—	—	—
外 国 証 券	411,085	401,848	△ 9,237	9,989	19,226	484,994	499,527	14,533	20,875	6,341
公 社 債	400,067	388,006	△ 12,060	7,010	19,071	462,826	473,344	10,518	16,640	6,121
株 式 等	11,018	13,841	2,823	2,978	154	22,167	26,183	4,015	4,235	219
その他の証券	12,942	13,322	380	711	331	34,999	35,736	737	769	32
買入金銭債権	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
譲渡性預金	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- (注) 1. 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。
 2. 満期保有目的の債券及び一部の責任準備金対応債券について、通貨関連のデリバティブ取引があり、当該金融派生商品の時価は以下のとおりです。
 2017年度末:責任準備金対応債券に係るもの 5,856百万円
 2018年度末:満期保有目的の債券に係るもの 14百万円、責任準備金対応債券に係るもの 5,337百万円

・時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位:百万円)

区 分	2017年度末	2018年度末
満期保有目的の債券	—	—
非上場外国債券	—	—
その他	—	—
責任準備金対応債券	—	—
子会社・関連会社株式	463	1,053
その他の有価証券	6,569	12,447
非上場国内株式(店頭売買株式を除く)	50	50
非上場外国株式(店頭売買株式を除く)	357	2,344
非上場外国債券	—	—
その他	6,161	10,052
合 計	7,032	13,500

④ 金銭の信託の時価情報

該当ありません。

4. 貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	2017年度 (2018年3月31日現在)	2018年度 (2019年3月31日現在)	期 別 科 目	2017年度 (2018年3月31日現在)	2018年度 (2019年3月31日現在)
	金 額	金 額		金 額	金 額
(資産の部)			(負債の部)		
現金及び預貯金	63,279	68,937	保険契約準備金	1,838,477	1,838,173
預 貯 金	63,279	68,937	支 払 備 金	37,390	49,452
有 価 証 券	1,849,313	1,830,343	責 任 準 備 金	1,800,158	1,787,998
国 債	340,612	298,512	契 約 者 配 当 準 備 金	928	721
地 方 債	78,921	77,701	代 理 店 借	5,143	6,129
社 債	401,595	388,220	再 保 険 借	50,367	45,043
株 式	29,671	1,103	そ の 他 負 債	27,073	21,859
外 国 証 券	455,460	583,502	未 払 法 人 税 等	386	859
そ の 他 の 証 券	543,052	481,303	未 払 金	6,247	5,366
貸 付 金	20,213	46,418	未 払 費 用	5,846	6,372
保 険 約 款 貸 付	13,006	16,159	前 受 収 益	3	2
一 般 貸 付	7,206	30,259	預 り 金	519	546
有 形 固 定 資 産	25,522	25,029	預 り 保 証 金	1,282	1,329
土 地	16,918	16,918	金 融 派 生 商 品	9,266	5,674
建 物	7,533	7,285	金 融 商 品 等 受 入 担 保 金	1,090	—
リ ー ス 資 産	243	71	リ ー ス 債 務	293	97
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	827	754	資 産 除 去 債 務	43	44
無 形 固 定 資 産	4,113	5,316	仮 受 金	2,093	1,566
ソ フ ト ウ ェ ア	4,111	5,315	役 員 賞 与 引 当 金	34	55
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	1	1	退 職 給 付 引 当 金	2,109	1,873
代 理 店 貸	160	165	価 格 変 動 準 備 金	3,181	3,822
再 保 険 貸	13	4	繰 延 税 金 負 債	4,674	—
そ の 他 資 産	56,356	43,779	負 債 の 部 合 計	1,931,061	1,916,957
未 収 金	42,771	28,913	(純資産の部)		
前 払 費 用	2,570	3,456	資 本 金	56,400	56,400
未 収 収 益	5,310	5,516	利 益 剰 余 金	19,896	28,073
預 託 金	1,391	1,313	そ の 他 利 益 剰 余 金	19,896	28,073
先 物 取 引 差 入 証 拠 金	6	—	繰 越 利 益 剰 余 金	19,896	28,073
先 物 取 引 差 金 勘 定	1	—	株 主 資 本 合 計	76,296	84,473
金 融 派 生 商 品	4,188	4,465	そ の 他 有 価 証 券	15,191	19,734
仮 払 金	115	114	評 価 差 額 金	—	—
そ の 他 の 資 産	0	0	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△ 3,825	802
繰 延 税 金 資 産	—	2,229	評 価 ・ 換 算 差 額 等 計	11,366	20,536
貸 倒 引 当 金	△ 247	△ 255	純 資 産 の 部 合 計	87,663	105,010
資 産 の 部 合 計	2,018,724	2,021,968	負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	2,018,724	2,021,968

(貸借対照表の注記)

1. 有価証券の評価は、以下のとおりであります。
 - ① 売買目的有価証券については時価法(売却原価の算定は移動平均法)によっております。
 - ② 満期保有目的の債券については先入先出法による償却原価法(利息法)によっております。
 - ③ 「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第 21 号)に基づく責任準備金対応債券については先入先出法による償却原価法(利息法)によっております。
 - ④ 子会社株式及び関連会社株式(保険業法第 2 条第 12 項に規定する子会社及び保険業法施行令第 13 条の 5 の 2 第 3 項に規定する子法人等のうち子会社を除いたもの及び関連法人等が発行する株式をいう)については原価法(売却原価の算定は移動平均法)によっております。
 - ⑤ その他有価証券のうち時価のあるものについては 3 月末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価の算定は先入先出法)、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては先入先出法による原価法によっております。なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
2. デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。
3. 有形固定資産の減価償却の方法は、以下の方法によっております。
 - ・有形固定資産(リース資産を除く)
定率法(ただし、建物については定額法)を採用しております。
 - ・リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、その他の有形固定資産のうち取得価額が 10 万円以上 20 万円未満のものについては、3 年間で均等償却を行っております。
4. 外貨建資産・負債は、決算日の為替相場により円換算しております。
なお、その他有価証券の換算差額のうち、外貨建債券に係る換算差額については、外国通貨による時価の変動に係る換算差額を評価差額とし、それ以外の換算差額については為替差損益として処理しております。
5. 貸倒引当金は、資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、最終の回収について重大な懸念が存在する債権については、回収の可能性を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、貸倒実績等から算出した予想損失率を債権額に乗じた額を計上しております。
すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。
6. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。
退職給付債務並びに退職給付費用の処理方法は、以下のとおりであります。

退職給付見込額の期間帰属方法	期間定額基準
数理計算上の差異の処理年数	一括償却
過去勤務費用の処理年数	一括償却
7. 役員賞与引当金は、役員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち、当年度末において発生したと認められる額を計上しております。
8. 価格変動準備金は、保険業法第 115 条の規定に基づき算出した額を計上しております。

9. ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」(2008年3月10日 企業会計基準第10号)に従い、外貨建債券に係る為替変動リスク等のヘッジとして為替の振当処理を行っております。また、債券に係るキャッシュ・フロー変動リスクのヘッジとして繰延ヘッジを行っております。なお、ヘッジの有効性の判定には、ヘッジ対象とヘッジ手段の為替変動等またはキャッシュ・フロー変動を比較する方法によっております。
10. 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。資産にかかる控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、前払費用に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、発生年度に費用処理しております。
11. 責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については、以下の方式により計算しております。
- ① 標準責任準備金対象契約については、1996年2月大蔵省告示第48号に定める方式
 ② 標準責任準備金対象外契約については、平準純保険料式
 ただし、無配当外貨建終身保険(積立利率変動型)については、保険料及び責任準備金の算出方法書に定める方法により計算しております。
 なお、保険業法施行規則第69条第5項の規定に基づき、一部の個人保険契約及び個人年金保険契約について、追加責任準備金を2,500百万円積み立てております。
12. 無形固定資産に計上している自社利用のソフトウェアの減価償却の方法は、利用可能期間に基づく定額法により行っております。
13. 責任準備金の積立方式は、従来一部の契約については保険業法施行規則第69条第4項第4号の規定に基づいて5年チルメル式または全期チルメル式により計算していましたが、標準責任準備金達成のために、当年度より11の方法へ変更いたしました。この変更に伴う経常利益及び税引前当期純利益に与える影響は軽微であります。
14. 保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、全世界のマニライフ・グループ全体で実施されている資産負債管理プロセスに則って行っております。このプロセスに基づき、主に、日本国債・投資適格社債・投資信託等に投資しております。また、デリバティブについては、主としてリスクのヘッジ手段・現物取引の代替手段として活用しております。なお、主な金融商品として、有価証券は市場リスク及び信用リスクに晒されております。市場リスクの管理にあたっては、資産運用別の運用限度枠やバリュアットリスクに基づくリスク量の限度枠を設定するとともに、保有資産の損益状況のモニタリングを行うことにより、適正な管理を行っております。外貨建の責任準備金に対応する運用は同じ通貨建の資産で運用を行い、円貨建の責任準備金に対応して運用している外貨建資産に関してはヘッジ取引で円貨に転換し、為替リスクを排除しております。信用リスクの管理にあたっては、各投融資先の信用リスクの状況を内部格付制度により評価し、また、投融資限度枠を設定して特定企業・業種への与信集中を防いでおります。一方、与信全体の予想損失額の把握により資産全体における信用リスク管理も行っております。現金及び預貯金、未収金、有価証券ならびに金融派生商品に係る貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
現金及び預貯金	68,937	68,937	-
未収金	28,913	28,913	-
有価証券	1,817,418	1,848,544	31,126
売買目的有価証券	521,746	521,746	-
満期保有目的の債券(*1)	3,097	3,108	10
責任準備金対応債券(*1)	521,250	552,365	31,115
その他有価証券	771,324	771,324	-
金融派生商品(*2)	△1,208	△1,208	-
ヘッジ会計が適用されていないもの	2,543	2,543	-
ヘッジ会計が適用されているもの	△3,752	△3,752	-

(*1) 満期保有目的の債券及び一部の責任準備金対応債券について、通貨関連のデリバティブ取引があり、当該金融派生商品の時価はそれぞれ14百万円、5,337百万円であります。

(*2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(1) 現金及び預貯金

預貯金はすべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 未収金

未収金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券

・市場価格のある有価証券

売買目的有価証券、満期保有目的の債券、責任準備金対応債券ならびにその他有価証券の時価は、3月末日の市場価格等によっております。

・市場価格のない有価証券

非上場株式等時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、有価証券に含めておりません。当該非上場株式等の当期末における貸借対照表価額は、12,925百万円であります。

(4) 金融派生商品

通貨スワップ取引及び金利スワップ取引の時価については、取引金融機関から提示された価格、または先物為替相場及び金利市場等により算出した理論価格によっております。また、クレジット・デフォルト・スワップの時価については、市場実勢プレミアム等により算出した理論価格によっております。

15. 当社では、東京都その他の地域において賃貸用のオフィスビル等を有しており、当期末における当該賃貸等不動産の貸借対照表価額は23,118百万円、時価は31,810百万円であります。なお、当該賃貸等不動産は、当社が賃貸オフィスビルを使用している部分を含んでおります。これらの時価の算定にあたっては、主として「不動産鑑定評価基準」に基づいた金額によっております。
また、賃貸等不動産の貸借対照表価額に含まれている資産除去債務に対応する額は、3百万円であります。
16. 貸付金のうち、延滞債権額は、40百万円であります。これは全額保険約款貸付であり、うち27百万円は解約返戻金等で担保されております。
17. 有形固定資産の減価償却累計額は、6,815百万円であります。
18. 特別勘定の資産の額は、530,088百万円であります。なお、負債の額も同額であります。
19. 関係会社に対する金銭債権の総額は137百万円、金銭債務の総額は1,075百万円であります。

20. 繰延税金資産の総額は、12,368 百万円、繰延税金負債の総額は、7,871 百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、2,266 百万円であります。繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、保険契約準備金 7,670 百万円、価格変動準備金 1,070 百万円、減価償却超過額 1,069 百万円、及び退職給付引当金 524 百万円であります。繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、その他有価証券の評価差額 7,675 百万円であります。

繰延税金資産から評価性引当額として控除された金額は、将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額 2,266 百万円であります。繰延税金資産から評価性引当額として控除された額の主な変動の理由は、解消見込年度が長期にわたる将来減算一時差異にかかる繰延税金資産を回収可能としたこと、および将来課税所得の見積りを見直したことであります。当年度における法定実効税率は 28.00%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主要な内訳は、評価性引当額の減少 134.19%であります。なお、『「税効果会計に係る会計基準」の一部改正』（企業会計基準第 28 号 2018 年 2 月 16 日）を適用し、これに基づき記載内容を追加しております。

21. 契約者配当準備金の異動状況は、以下のとおりであります。

当期首現在高	928 百万円
当期契約者配当金支払額	216 百万円
利息による増加	0 百万円
契約者配当準備金繰入額	8 百万円
当期末現在高	721 百万円

22. 関係会社の株式は、1,053 百万円であります。

23. 保険業法施行規則第 73 条第 3 項において準用する同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下「出再支払備金」という。）の金額は 2,623 百万円、同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下「出再責任準備金」という。）の金額は 1,696,191 百万円であります。

24. 1 株当たり純資産額は、913,514 円 73 銭であります。なお、1 株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式に係る事業年度末の純資産額は 47,511 百万円であり、算定に用いられた事業年度末の普通株式数は 52,010 株であります。

25. 1996 年大蔵省告示第 50 号第 1 条第 5 項に規定する再保険契約に係る未償却出再手数料の当年度末残高は、466 百万円であります。

26. 保険業法第 259 条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当年度末における当社の今後の負担見積額は、8,733 百万円であります。なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。

27. 責任準備金対応債券のリスク管理方針の概要は、以下のとおりであります。

負債のキャッシュ・フローの特性に応じて小区分を設定し、各小区分の責任準備金対応債券と責任準備金のデュレーションを一定幅に対応させることにより、金利変動リスクを管理しております。当該区分の責任準備金対応債券と責任準備金のデュレーションについては、資本/ファイナンス委員会にて定期的に確認しております。

① 以下の保険商品から構成される円建一般小区分

- ・第百生命保険相互会社から移転を受けたすべての保険種類
- ・区分経理規程における有配当商品区分に属する商品および医療保険
- ・変額個人年金保険における年金開始後（特別勘定で資産を管理している契約を除く）
- ・無配当終身保険
- ・逡増定期保険、新逡増定期保険、無配当終身ガン保険、無配当ガン治療保険、無配当歳満了定期保険、および無配当定期保険

② 豪ドル建商品小区分

③ 米ドル建商品小区分

28. 退職給付に関する事項は、以下のとおりであります。

(1) 採用している退職給付制度の概要

当社は内勤職員および営業職員については、確定給付型の制度として確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

(2) 確定給付制度

① 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付債務	9,663 百万円
勤務費用	1,064 百万円
利息費用	37 百万円
数理計算上の差異の当期発生額	86 百万円
退職給付の支払額	<u>△890 百万円</u>
期末における退職給付債務	<u>9,962 百万円</u>

② 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

期首における年金資産	7,553 百万円
期待運用収益	132 百万円
数理計算上の差異の当期発生額	△22 百万円
事業主からの拠出額	1,085 百万円
退職給付の支払額	<u>△661 百万円</u>
期末における年金資産	<u>8,088 百万円</u>

③ 退職給付債務及び年金資産と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

積立型制度の退職給付債務	8,850 百万円
年金資産	<u>△8,088 百万円</u>
	762 百万円
非積立型制度の退職給付債務	<u>1,111 百万円</u>
退職給付引当金	<u>1,873 百万円</u>

④ 退職給付に関連する損益

勤務費用	1,064 百万円
利息費用	37 百万円
期待運用収益	△132 百万円
数理計算上の差異の当期の費用処理額	<u>108 百万円</u>
確定給付制度に係る退職給付費用	<u>1,078 百万円</u>

⑤ 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、以下のとおりであります。

債券	86.8%
株式	9.4%
その他	<u>3.8%</u>
合計	<u>100.0%</u>

⑥ 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

⑦ 数理計算上の計算基礎に関する事項

期末における主要な数理計算上の計算基礎は、以下のとおりであります。

(内勤職員)

割引率 0.33%

長期期待運用収益率 1.76%

(営業職員)

割引率 0.29%

長期期待運用収益率 1.76%

(損益計算書の注記)

1. 関係会社との取引による収益の総額は3百万円、費用の総額は2,264百万円であります。
2. (1) 有価証券売却益の内訳は、国債等債券 3,225百万円、株式等 5,569百万円、外国証券 1,392百万円
であります。
- (2) 有価証券売却損の内訳は、国債等債券 710百万円、株式等 4,932百万円、外国証券 2,274百万円
であります。
3. 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金繰入額は、299百万円であります。
4. 責任準備金戻入額の計算上、足し上げられた出再責任準備金繰入額は、358,848百万円あります。
5. 金融派生商品費用には、評価益 307百万円が含まれております。
6. 普通株式に係る1株当たり当期純利益は、112,997円70銭であります。
7. 再保険料には、1996年大蔵省告示第50号第1条第5項に規定する再保険契約に係る未償却出再手数料の減少額145百万円を含んでおります。
8. 関連当事者との取引は、以下のとおりであります。
 - (1) 親会社及び法人主要株主等
記載すべき取引はありません。
 - (2) 子会社及び関連会社等
記載すべき取引はありません。

(3) 兄弟会社等

属性	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社の子会社	マニファクチャラーズ・ ライフ・ラインシュランス・ リミテッド	なし	再保険取引	再保険 収入	320,121	再保険貸	-
				再保険料	634,684	再保険借	43,537

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 再保険取引については、一般の取引条件と同様に決定しております。

- (4) 役員
記載すべき取引はありません。

6. 経常利益等の明細(基礎利益)

(単位:百万円)

	2017年度 決算 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	2018年度 決算 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
基礎利益 A	△ 10,677	9,587
キャピタル収益	35,360	12,542
金銭の信託運用益	—	—
売買目的有価証券運用益	—	—
有価証券売却益	15,038	10,186
金融派生商品収益	110	—
為替差益	—	2,355
その他キャピタル収益	20,210	—
キャピタル費用	17,317	14,158
金銭の信託運用損	—	—
売買目的有価証券運用損	—	—
有価証券売却損	1,434	7,916
有価証券評価損	18	—
金融派生商品費用	—	2,274
為替差損	15,328	—
その他キャピタル費用	536	3,967
キャピタル損益 B	18,042	△ 1,616
キャピタル損益含み基礎利益 A+B	7,364	7,971
臨時収益	1,063	145
再保険収入	—	—
危険準備金戻入額	900	—
個別貸倒引当金戻入額	—	0
その他臨時収益	163	145
臨時費用	109	3,393
再保険料	—	—
危険準備金繰入額	—	893
個別貸倒引当金繰入額	109	—
特定海外債権引当勘定繰入額	—	—
貸付金償却	0	0
その他臨時費用	—	2,500
臨時損益 C	953	△ 3,248
経常利益 A+B+C	8,318	4,723

(注)1.「基礎利益」には、次の金額が含まれています。

	2017年度	2018年度
契約条件変更に基づく個人年金保険の解約等による責任準備金削減額	△ 163	△ 145
外貨建保険契約に係る市場為替レート変動の影響額	△ 20,210	3,097
マーケット・ヴァリュア・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額	536	869

2.「その他キャピタル収益」には、次の金額が含まれています。

	2017年度	2018年度
外貨建保険契約に係る市場為替レート変動の影響額	20,210	—

3.「その他キャピタル費用」には、次の金額が含まれています。

	2017年度	2018年度
外貨建保険契約に係る市場為替レート変動の影響額	—	3,097
マーケット・ヴァリュア・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額	536	869

4.「その他臨時収益」には、次の金額が含まれています。

	2017年度	2018年度
契約条件変更に基づく個人年金保険の解約等による責任準備金削減額	163	145

5.「その他臨時費用」には、次の金額が含まれています。

	2017年度	2018年度
保険業法施行規則第69条第5項に基づく責任準備金繰入額	—	2,500

7. 株主資本等変動計算書

2017年度(2017年4月1日から2018年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本			評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
		その他利益剰余金					
		繰越利益剰余金					
当期首残高	56,400	12,940	69,340	17,647	△ 5,928	11,719	81,060
当期変動額							
当期純利益		6,956	6,956				6,956
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				△ 2,456	2,103	△ 353	△ 353
当期変動額合計	—	6,956	6,956	△ 2,456	2,103	△ 353	6,603
当期末残高	56,400	19,896	76,296	15,191	△ 3,825	11,366	87,663

2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本			評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
		その他利益剰余金					
		繰越利益剰余金					
当期首残高	56,400	19,896	76,296	15,191	△ 3,825	11,366	87,663
当期変動額							
当期純利益		8,176	8,176				8,176
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				4,543	4,627	9,170	9,170
当期変動額合計	—	8,176	8,176	4,543	4,627	9,170	17,347
当期末残高	56,400	28,073	84,473	19,734	802	20,536	105,010

(株主資本等変動計算書の注記)

発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位:株)

	当期首 株式数	当期増加 株式数	当期減少 株式数	当期末 株式数
発行済株式				
普通株式	52,010	-	-	52,010
優先株式B	44,390	-	-	44,390
優先株式C	1,039	-	-	1,039
合計	97,439	-	-	97,439

8. 債務者区分による債権の状況

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度末	2018年度末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	—	—
危険債権	34	41
要管理債権	—	—
小計 (対合計比)	34 (0.2)	41 (0.1)
正常債権	20,347	46,601
合計	20,382	46,642

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 要管理債権とは、3ヵ月以上延滞貸付金及び条件緩和貸付金です。なお、3ヵ月以上延滞貸付金とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延している貸付金(注1及び2に掲げる債権を除く。)、条件緩和貸付金とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金(注1及び2に掲げる債権並びに3ヵ月以上延滞貸付金を除く。)です。
4. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から3までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

9. リスク管理債権の状況

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度末	2018年度末
破綻先債権額	—	—
延滞債権額	34	40
3ヵ月以上延滞債権額	—	—
貸付条件緩和債権額	—	—
合計 (貸付残高に対する比率)	34 (0.2)	40 (0.1)

- (注) 1. 破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(未収利息不計上貸付金)のうち、会社更生法、民事再生法、破産法、会社法等による手続き申立てにより法的倒産となった債務者、又は手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、あるいは、海外の法律により上記に準ずる法律上の手続き申立てがあった債務者に対する貸付金です。
2. 延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、上記破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予したもの以外の貸付金です。延滞債権額は全額保険約款貸付です。2017年度末においては34百万円のうち22百万円、2018年度末においては40百万円のうち27百万円が解約返戻金等で担保されています。
3. 3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヵ月以上遅延しているもので、破綻先債権、延滞債権に該当しない貸付金です。
4. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行ったもので、破綻先債権、延滞債権および3ヵ月以上延滞債権に該当しない貸付金です。

10. ソルベンシー・マージン比率

(1) 単体ソルベンシー・マージン比率

(単位:百万円)

項目	2017年度末	2018年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	203,142	229,414
資本金等	76,296	84,473
価格変動準備金	3,181	3,822
危険準備金	18,628	19,521
一般貸倒引当金	10	18
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	15,535	25,391
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	△ 217	1,419
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	81,970	83,849
負債性資本調達手段等	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	7,738	10,918
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)	48,252	54,393
保険リスク相当額 R_1	1,689	1,722
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	756	782
予定利率リスク相当額 R_2	3,451	4,282
最低保証リスク相当額 R_7	478	365
資産運用リスク相当額 R_3	43,267	48,571
経営管理リスク相当額 R_4	992	1,114
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	841.9%	843.5%

- (注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び1996年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。
2. 「全期チルメル式責任準備金相当額超過額」は2011年金融庁告示第25号第1項第1号に規定する額、「負債性資本調達手段等」は同告示第1項第2号に規定する額、「全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額」は同告示第1項第3号に規定する額を記載しています。
3. 「最低保証リスク相当額」は、標準的方式を用いて算出しています。

(2) 連結ソルベンシー・マージン比率

子会社であるマニユライフ・アセット・マネジメント株式会社及びマニユライフ・ファイナンシャル・アドバイザーズ株式会社との連結ソルベンシー・マージン比率を算出し開示しています。

(単位:百万円)

項 目	2017年度末	2018年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	204,733	231,094
資本金等	77,887	86,154
価格変動準備金	3,181	3,822
危険準備金	18,628	19,521
異常危険準備金	—	—
一般貸倒引当金	10	18
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	15,535	25,391
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	△ 217	1,419
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	81,970	83,849
負債性資本調達手段等	—	—
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	—	—
控除項目	—	—
その他	7,738	10,918
リスクの合計額 $\sqrt{(\sqrt{R_1^2 + R_5^2 + R_8 + R_9})^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4 + R_6$ (B)	48,122	54,083
保険リスク相当額 R_1	1,689	1,722
一般保険リスク相当額 R_5	—	—
巨大災害リスク相当額 R_6	—	—
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	756	782
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R_9	—	—
予定利率リスク相当額 R_2	3,451	4,282
最低保証リスク相当額 R_7	478	365
資産運用リスク相当額 R_3	43,139	48,267
経営管理リスク相当額 R_4	990	1,108
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	850.8%	854.5%

- (注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条の2、第88条及び2011年金融庁告示第23号の規定に基づいて算出しています。
2. 「全期チルメル式責任準備金相当額超過額」は2011年金融庁告示第25号第4第1項第1号に規定する額、「負債性資本調達手段等」は同告示第4第1項第2号に規定する額、「全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額」は同告示第4第1項第3号に規定する額を記載しています。
3. 「最低保証リスク相当額」は、標準的方式を用いて算出しています。

11. 2018年度特別勘定の状況

(1) 特別勘定資産残高の状況

(単位:百万円)

区 分	2017年度末	2018年度末
	金 額	金 額
個 人 変 額 保 険	57,573	90,781
個 人 変 額 年 金 保 険	526,480	439,307
団 体 年 金 保 険	—	—
特 別 勘 定 計	584,054	530,088

(2) 個人変額保険(特別勘定)の状況

① 保有契約高

(単位:千件、百万円)

区 分	2017年度末		2018年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
変 額 保 険 (有 期 型)	13	55,904	13	59,914
変 額 保 険 (終 身 型)	63	312,088	97	452,370
変 額 積 立 特 約	—	1,726	—	1,685
合 計	76	369,719	111	513,970

(注) 個人変額保険の保有金額には、一般勘定で運用されるものを含んでいます。

② 年度末個人変額保険特別勘定資産の内訳

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度末		2018年度末	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比
現 預 金 ・ コ ー ル ロ ー ン	1,568	2.7	2,009	2.2
有 価 証 券	55,655	96.7	88,602	97.6
公 社 債	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—
外 国 証 券	45,973	79.9	78,247	86.2
公 社 債	45,973	79.9	78,247	86.2
株 式 等	—	—	—	—
そ の 他 の 証 券	9,682	16.8	10,354	11.4
貸 付 金	—	—	—	—
そ の 他	348	0.6	169	0.2
貸 倒 引 当 金	—	—	—	—
合 計	57,573	100.0	90,781	100.0

③ 個人変額保険特別勘定の運用収支状況

(単位:百万円)

区 分	2017年度	2018年度
	金 額	金 額
利 息 配 当 金 等 収 入	0	—
有 価 証 券 売 却 益	515	258
有 価 証 券 償 還 益	—	—
有 価 証 券 評 価 益	320	2,314
為 替 差 益	△ 0	△ 845
金 融 派 生 商 品 収 益	—	—
そ の 他 の 収 益	0	—
有 価 証 券 売 却 損	—	—
有 価 証 券 償 還 損	—	—
有 価 証 券 評 価 損	△ 4,633	—
為 替 差 損	2,967	0
金 融 派 生 商 品 費 用	—	—
そ の 他 の 費 用	—	—
収 支 差 額	2,501	1,727

(3) 個人変額年金保険(特別勘定)の状況

① 保有契約高

(単位:千件、百万円)

区 分	2017年度末		2018年度末	
	件 数	金 額	件 数	金 額
個 人 変 額 年 金 保 険	72	524,755	62	438,144

② 年度末個人変額年金保険特別勘定資産の内訳

(単位:百万円、%)

区 分	2017年度末		2018年度末	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比
現 預 金 ・ コ ー ル ロ ー ン	6,490	1.2	6,157	1.4
有 価 証 券	519,722	98.7	433,144	98.6
公 社 債	—	—	—	—
株 式	—	—	—	—
外 国 証 券	—	—	—	—
公 社 債	—	—	—	—
株 式 等	—	—	—	—
そ の 他 の 証 券	519,722	98.7	433,144	98.6
貸 付 金	—	—	—	—
そ の 他	267	0.1	6	0.0
貸 倒 引 当 金	—	—	—	—
合 計	526,480	100.0	439,307	100.0

③ 個人変額年金保険特別勘定の運用収支状況

(単位:百万円)

区 分	2017年度	2018年度
	金 額	金 額
利 息 配 当 金 等 収 入	359	182
有 価 証 券 売 却 益	84,096	34,329
有 価 証 券 償 還 益	—	—
有 価 証 券 評 価 益	△ 49,882	△ 23,937
為 替 差 益	0	0
金 融 派 生 商 品 収 益	—	—
そ の 他 の 収 益	0	—
有 価 証 券 売 却 損	0	0
有 価 証 券 償 還 損	—	—
有 価 証 券 評 価 損	△ 0	6
為 替 差 損	0	—
金 融 派 生 商 品 費 用	—	—
そ の 他 の 費 用	—	—
収 支 差 額	34,574	10,565

12. 保険会社及びその子会社等の状況

2018年度においては、子会社等の規模を考慮し、当企業集団全体の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいことから、連結財務諸表を作成していません。